

2 2. 入院患者の転倒・転落発生率

算式

$$\begin{array}{ll} \text{【分子】} & \text{入院中患者に発生した転倒・転落件数} \\ & \text{(労災病院グループにおけるインシデント・アクシデントレベル3 a 以上の事例に限る。)} \times 1000 \\ \text{【分母】} & \text{入院患者延数} \end{array}$$

定義

入院患者の転倒・転落発生割合

指標の解説

施設調査より抽出

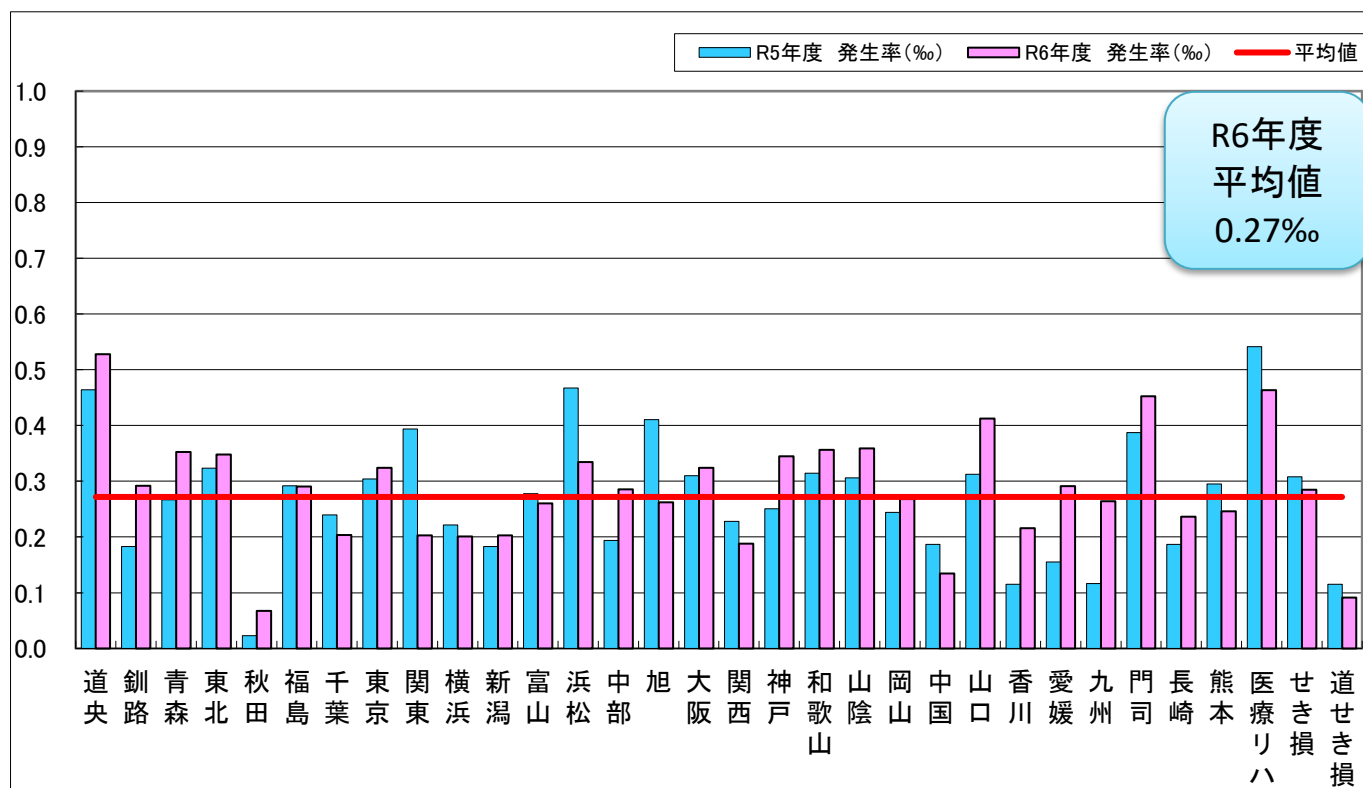
安全で質の高い医療の提供に関して、医療安全対策への取組みについて入院患者の転倒・転落の発生状況から評価する。

インシデント・アクシデント事例の中で転倒・転落件数が最も多く、各病院では医療安全対策の取組みとして転倒・転落のリスクをアセスメントして予防策を立案・実行している。

転倒・転落発生率が低い場合には、転倒・転落予防に積極的に取り組み、またその効果が表れていると評価できる。

※ ‰ = 1000分の1

2.2. 入院患者の転倒・転落発生率



No	施設名	R5年度			R6年度		
		分母	分子	発生率(%)	分母	分子	発生率(%)
1	道央	38,780	18	0.46	30,286	16	0.53
2	釧路	114,859	21	0.18	119,816	35	0.29
3	青森	67,428	18	0.27	70,875	25	0.35
4	東北	129,803	42	0.32	126,377	44	0.35
5	秋田	43,832	1	0.02	44,692	3	0.07
6	福島	89,096	26	0.29	92,956	27	0.29
7	千葉	116,942	28	0.24	112,940	23	0.20
8	東京	95,274	29	0.30	86,457	28	0.32
9	関東	177,724	70	0.39	192,080	39	0.20
10	横浜	189,666	42	0.22	198,992	40	0.20
11	新潟	27,310	5	0.18	24,626	5	0.20
12	富山	64,888	18	0.28	65,276	17	0.26
13	浜松	85,628	40	0.47	86,647	29	0.33
14	中部	123,811	24	0.19	112,116	32	0.29
15	旭	75,466	31	0.41	72,494	19	0.26
16	大阪	190,272	59	0.31	206,722	67	0.32
17	関西	192,984	44	0.23	181,055	34	0.19
18	神戸	75,870	19	0.25	72,534	25	0.34
19	和歌山	95,439	30	0.31	92,646	33	0.36
20	山陰	104,435	32	0.31	103,082	37	0.36
21	岡山	94,215	23	0.24	96,913	26	0.27
22	中国	112,415	21	0.19	118,715	16	0.13
23	山口	89,574	28	0.31	87,232	36	0.41
24	香川	112,915	13	0.12	111,095	24	0.22
25	愛媛	45,132	7	0.16	44,586	13	0.29
26	九州	128,961	15	0.12	117,207	31	0.26
27	門司	51,630	20	0.39	53,049	24	0.45
28	長崎	91,160	17	0.19	88,814	21	0.24
29	熊本	122,038	36	0.29	117,841	29	0.25
30	医療リハ	25,868	14	0.54	28,053	13	0.46
31	せき損	45,487	14	0.31	45,629	13	0.28
32	道せき損	43,368	5	0.12	43,678	4	0.09
合計		3,062,270	810	0.26	3,045,481	828	0.27
平均	500床以上	187,662	54	0.29	194,712	45	0.23
	400床以上	117,446	25	0.22	112,844	28	0.25
	300床以上	90,677	27	0.30	96,013	31	0.32
	300床未満	48,108	14	0.29	49,648	15	0.30